

— 目次 —

- 01 御返地小稲刈り体験
- 02 二戸の子どもたちの「チカラ」
- 06 健康なカラダ
健診・検診で確認
- 08 令和4年度決算
- 11 にのへトピックス
- 14 News & Information
- 16 おいでよ！八戸・久慈
- 18 NINOHE high school life!
- 19 きらり！明日の風
～山田 凌さん～
健幸 letter
- 20 こしゃーる
図書館情報
- 21 小さな美術館
アクティブにのへ
～古典に親しむ沙羅の会～
- 22 こみゆに Tea たいむ
- 23 慶弔、休日当番医など
- 24 南部事変 2023



亀磨くんイラスト：きり光乗

二戸の子どもたちの「チカラ」

今年4月に、小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果と市教育委員会の分析を紹介します。二戸の子どもたちは、一体どんな「チカラ」を秘めているのでしょうか。



撮影：金田一中学校での英語の授業

子どもたちが持つチカラ

全国学力・学習状況調査とは

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てる調査です。

当市も、「子どもたちが、自分の学習状況を理解し、これまでの学習を振り返るため」と「先生が、子どもがつまづきを理解し、授業改善にいかすため」に活用しています。

自ら学ぶチカラ

「自分には良いところがあると思いますか」という設問に「良いところがある」と答えた児童生徒の割合が、全国や県と比較して多いことが分かりました。また、「将来の夢や目標を持っているか」、「家で自分で計画を立てて勉強しているか」という設問に、肯定的に答えた割合も全国や県と同等もしくは多いことが分かりました。

これらは、地域や各家庭、学校で児童生徒の良さを認め、目標を持って取り組むことの大切さや学ぶことの意義を伝え、育んできた成果です。当市の児童生徒は、自己肯定感が高く、自ら学び続ける力を持っています。

他者から学ぶチカラ

さらに、「自分と違う意見について考えるのは楽しいか」という設問に「楽しい」と答えた児童生徒の割合も多いことも分かりました。これは、自分の考えを安心して発表できる学級づくりをしながら、他者の考えを聞くことを大切にしてきた成果です。

当市の児童生徒は他者と折り合いをつけたり、合意形成したりする力を持ち、「学びに向かう力、人間性等」を身に付けながら成長しています。

自分なりの 学びを

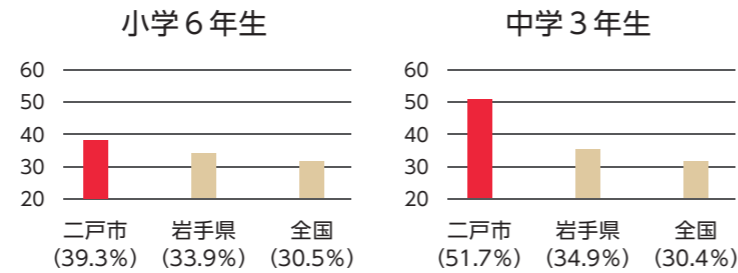
学びにつなげる授業づくり

①の結果は、内容ごとに学習課題を設定し、それを児童生徒が解決する流れの授業づくりに取り組んできた成果と言えます。児童生徒は、この授業で何を解決すればよいのかが明確となり、主体的に学習に取り組んでいると考えます。

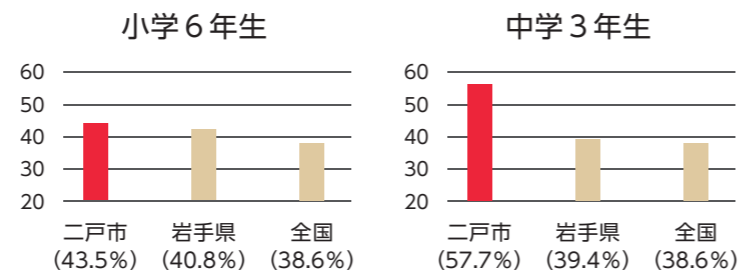
②の結果は、先生が一方向的に話す授業ではなく、先生と生徒、生徒同士による対話的な活動を取り入れて授業づくりに取り組んできた成果と言えます。児童生徒は、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞きながら考えを再構築することの意義を見出し、対話を通じた学習に取り組んでいると考えます。

③の結果は、先生がまとめて終わるのではなく、児童生徒が「振り返り」を書いたり、発表する活動の成果と言えます。児童生徒は、授業で何が分かったのか、分からなかったのかを自覚し、疑問や不明な点を先生や友達に聞きながら見直しを行い、次の学びにつなげていることが分かります。

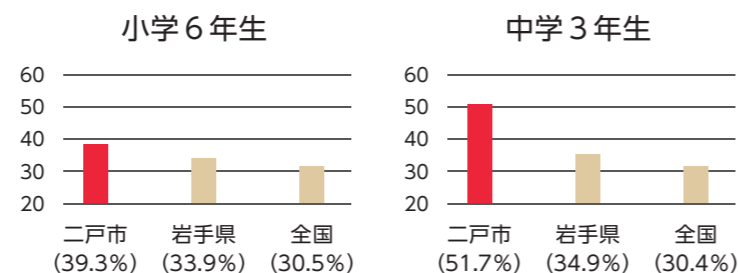
①これまで受けた授業では、課題の解決にむけて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（積極肯定）



②学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか（積極肯定）



③学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習ができていますか（積極肯定）



「チカラ」を身につける取り組み

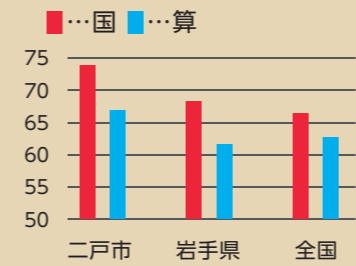
①～③の結果から、先生は現行指導要領で示された、授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりに取り組んでいる成果だと捉えています。

また、二戸授業モデル「授業の方向性を明確にする課題設定」、「言語活動を充実させた活動による課題解決」、「集団の学びを個に返すまとめと評価」を意識した授業づくりに取り組んでおり、子どもたちも着実にチカラを付けています。

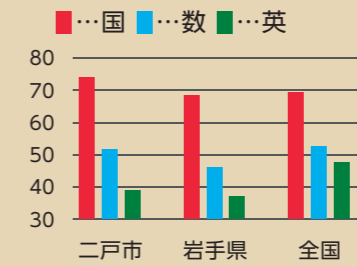


話し合いを大切に授業づくり

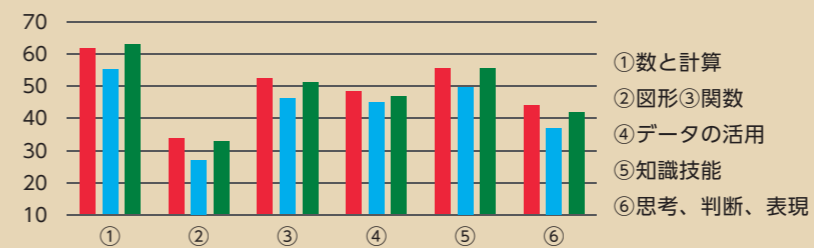
④小学校国語と算数



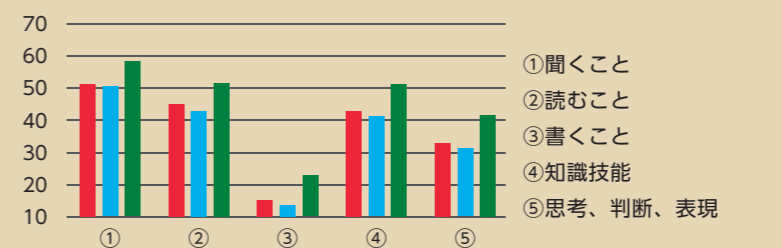
⑤中学校の国数英



⑥中学校数学の正答率（領域と観点別）



⑦中学校英語の正答率（領域と観点別）



学力調査から見た子ども達の状況

グラフ④から、小学校は国語、算数とも、全国や県の正答率を上回っています。また、全ての領域・観点別も同様に上回りました。

⑤から、中学校は英語を除き、全国の児童生徒と同等以上の水準を満たしました。次に、中学校の領域と観点別の結果を見てみましょう。

⑥の中学校数学は、全国や県の正答率と同等以上となっています。「数と計算」の領域、「知識・技能」の観点では、全国を下回りました。

⑦の中学校英語は、県の正答率を上回るものの、全国の正答率を下回りました。全ての領域・観点別も、同様となっています。

「生きる力」を育む

学校での取り組み

学校では、効果的な学びを進めるため、1人1台のタブレットを活用した授業を行っています。特に英語は、小学校高学年と中学校全学年が、デジタル教科書を用いて授業しています。同教科書の効果的な活用を推進

英語の授業でも ICT の活用を推進



するため、市では「ICTプロジェクト会議」を実施しています。

家庭での取り組み

家庭ではノーメディア週間、音読チェック、親子読書に取り組んでいます。これらの、教育振興運動推進協議会で提案した家庭での学習環境づくりが、結

果に結び付いていると考えています。

数値に表せないチカラ

全国学力学習状況調査で測る数値は「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点でしかありません。

子どもたちに身につけさせたいチカラは、数値で表せる学力だけではありません。「やりぬく力」、「行動力」、「創造力」など、非認知能力と言われるチカラなど、多岐にわたります。

学力調査の数値に一喜一憂せず、豊かな心、健やかな体とも関連させながら、子どもたちの「生きる力」を育むために、地域、家庭、学校の連携を推進していきます。